

産学官連携イベントレポート

広島大学第2回パテントデー(H22.12/21)

12月21日(火)、広島大学霞キャンパスで、広島大学第2回パテントデーを開催しました。

パテントデーは、創造的人材の育成と社会貢献の推進と広島大学の知的財産の向上をねらいとして、平成22年9月に第1回を開催しています。

広島大学より、パテントデーについてご紹介します。

2回目の開催となる今回は、京都大学産官学連携本部の寺西豊特任教授を講師にお迎えして、『大学知財戦略とiPS細胞技術権利化への道』と題して特別講演をしていただきました。



京都大学産官学連携本部の寺西 豊 特任教授



特別講演の様子

現在の日本において新しいイノベーションが求められている状況の中、大学はイノベーションを促進するための重要な担い手であり、このイノベーションを特許制度を通して促進すべきで、そのための戦略の必要性を述べられました。

また、大学でのパイオニア発明の重要性を説くとともに、アカデミアに限定した柔軟な特許制度への提言をされました。

あわせて、企業との共同研究のあり方や事業化、技術移転についても、京都大学の事例を挙げて説明され、創薬医学融合拠点の取り組み等を紹介していただきました。

特に、2005年12月に特許出願された山中伸弥先生のiPS細胞技術を権利化する経緯についてのお話は、参加者の関心を大いに集めていました。

当日は、17時からの開催で、学生・教職員のほか、学外からの参加者も含め50名が熱心に傾聴していました。また、講演後のパテント相談会にも数名の方が参加され、知財マネージャーからアドバイスを受けました。